

項目	観点	教科書名					
		新しい社会 公民(2・東書)	中学社会 公民 ともに生きる(17・教出)	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して(46・帝国)	中学社会 公民的分野(116・日文)	新しい公民教科書(225・自由社)	[最新]新しいみんなの公民(227・育鵬社)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を養うために、どのように配慮されているか。	・「見方・考え方」という項目があり、以前に学習した内容の活用や社会的事象を比較することなどが書かれている。 ・「みんなでチャレンジ」という項目で、社会的事象を多面的・多角的に考える課題が設定されている。 ・「憲法改正の手続き」は国民主権の中で、「三権分立」は国の政治の最後で扱っている。	・小單元ごとに、ページの下に小学校の時からこれまでに学習した項目が書かれている。 ・小單元ごとに学習内容とSDGsの関連項目が表記されている。 ・各章で意識させたい見方・考え方が導入ページで紹介され、活用させたい単元にマークが表記されている。 ・「憲法改正の手続き」は国民主権の中で、「三権分立」は、国の政治の最後で扱っている。	・各章末に「見方・考え方を働かせて考えよう」という項目があり、様々な角度から学習を振り返る活動が設定されている。 ・「アクティブ公民」という項目で、多角的な意見から考察する活動が盛り込まれている。 ・8つのテーマについて、賛否の意見を紹介し、多面的な考察を促すようにしている。 ・「憲法改正の手続き」は憲法の仕組みの中で、「三権分立」は、国の政治の前の章で扱っている。	・学習課題の下に「見方・考え方」という項目があり、以前に学習した内容も着目点として関連させて書かれている。 ・小單元によっては、「深めよう」という項目があり、様々な観点からの考察を促している。 ・「シンキングツール」という項目で、課題を多面的に考察する手段が示されている。 ・「憲法改正の手続き」は国民主権の中で、「三権分立」は、国の政治の最後で扱っている。	・「もっと知りたい」「アクティブに深めよう」というページで、社会的事象を多面的・多角的に考察する活動が盛り込まれている。 ・「やってみよう」という項目で、社会的事象を多面的にとらえ、比較する活動が盛り込まれている。 ・「憲法改正の手続き」は「日本国憲法の改正問題」という小單元の中で、「三権分立」は国の政治の最初で扱っている。	・單元ごとに「学習を深めよう」「やってみよう」というページがあり、小單元で学習したことを別の資料から考えたり、賛否の意見を紹介し、多面的な考察を促したりする活動が盛り込まれている。 ・「憲法改正の手続き」は「憲法改正の手続き」という小單元で憲法の基本原則の最後に、「三権分立」は国の政治の最後で扱っている。
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びを実現するためにどのような工夫が見られるか。	・各章で、単元を貫く課題をつかむために導入の活動が設けられている。 ・節ごとに「探究のステップ」という問いが設けられており、単元を貫く「探究課題」の解決を補助し、1時間ごとの学習をつなぐ役割をしている。 ・「みんなでチャレンジ」では、グループでの協働的な活動の項目が設けられており、対話的な学習ができるように工夫されている。 ・各ページで、深い学びを効果的に実現するための「見方・考え方」の項目が設けられている。 ・「まとめの活動」のページでは、学習内容を活用した問題が設定されており、主体的・対話的な学習活動を促すように工夫されている。	・各章の導入で、まんがやイラストを用いた資料の読み解きを通じ、学習の視点を捉えやすくするために、「学習のはじめに」のページが設けられている。 ・本文のページの導入資料では、キャラクターの言葉や「LOOK」の項目によって生徒の興味・関心を高めている。 ・「公民の技」では、個人やグループでの活動の項目が設けられており、技能や表現力を高められるように工夫されている。 ・「読み解こう」では、資料の読み解きについて、問いを手がかりに取り組むことができるように工夫されている。 ・「公民にアプローチ」のページでは、複数のメディアの活用方法について説明している。	・各章の導入で、実社会に興味をもたせ主体的な学びを引き出すために、大きなイラストを使った導入のページが設けられている。 ・節ごとに「問い」が設けられており、見通しをもって学習に取り組めるようにしている。 ・「アクティブ公民」のページでは、現実の社会で起こりうる事例を例示し、課題を追究できるように工夫されている。 ・「技能をみがく」では、発表や議論のしかたを紹介し、主体的・対話的な学習活動ができるようになっている。 ・「章の学習を振り返ろう」のページでは主体的・対話的に「章の問い」を振り返ることで、「深い学び」につなげられるように工夫されている。 ・資料を読み取るポイントを示し、資料活用の技能が高まるようにしている。	・各章の導入で、学習の見通しと見方・考え方を身近な場面に結びつけた内容の発展的な課題に対し、グループで取り組めるようになっている。 ・「アクティビティ」の項目では、「見方・考え方」を用いて、学習内容の理解を深める主体的・対話的な問いや活動ができるように工夫されている。 ・各ページで、学習課題の解決に向けて手がかりになる主な「見方・考え方」の例を示している。 ・「学習の整理と活用」では、シンキングツールを紹介し、主体的・対話的な学習活動ができるようになっている。 ・「チャレンジ公民」のページでは、社会の課題を提示し、自ら課題の解決に取り組めるように工夫されている。	・「アクティブに深めよう」のページが章の終わりに設定されており、学習した内容の発展的な課題に対し、グループで取り組めるようになっている。 ・「やってみよう」の項目で、学習内容の理解を深め、主体的な学習活動ができるように工夫されている。 ・「ここがポイント」の項目では、学習の要点が示されており、課題解決の手助けとなるよう工夫されている。 ・すべてのページで、語句の詳しい説明を提示し、学習内容を多面的・多角的にみることができるよう工夫している。 ・「レポートと卒業論文をつくろう」の項目で、調べ方やディベートの方法について詳しく解説しており、主体的・対話的な学習活動を促すように工夫されている。	・各章の最初に「〇〇の入口」のページを設け、学習の手順を具体的に提示することで、見通しをもって単元の学習を進めることができるような工夫が見られる。 ・本文のページの導入資料では、キャラクターの吹き出しがあることで課題をつかみやすくしている。 ・「スキルアップ」の項目では、発表や議論のしかたを紹介し、主体的・対話的な学習活動ができるように工夫されている。 ・多くのページに「やってみよう」の項目を設けることで、自分たちの生活と学習内容を結びつけ、主体的・対話的な学習ができるようになっている。 ・まとめの活動では、「〇〇のこれから」のページで、自分たちが学んだことをどのように社会に反映させるのかを具体的に表現させることで、主体的・対話的な学習ができるように工夫されている。
3 配列・分量	○教材の配列、分量には、どのような特色があるか。	・見開き左上に、学習に関する資料が1～2つ、場合によっては、2ページにわたって1つの資料が提示されている。その資料に関して随時、「集める」、「調べる」、「読み取る」、「考える」という課題がある(何もない場合もある)。 ・見開き右下に学習のまとめが2つ。1つは「チェック」という項目で、具体的な課題について本文から抜き出してまとめる活動。1つは「トライ」という項目で1つの観点や文中の語句を使って説明する作業がある。 ・授業時間数は76時間で構成されている。	・見開き左上に、学習に関する資料が1～3つ、登場人物が資料に対する疑問や見方のヒントを投げかけている。 ・見開き右下に学習のまとめが2つ。1つは「確認」という項目で、具体的な課題について本文から抜き出してまとめる活動。1つは「表現」という項目で、学習を振り返り、説明したり、意見交換したりするようになっている。また、「見方・考え方」のマークがある時は、その章を学習する大事な視点を意識するようにさせている。 ・授業時間数は81時間で構成されている。	・見開き左上に、学習に関する資料が1つと、その資料を活用しての課題が1つ書かれている。 ・見開き右下に学習のまとめが2つ出されている。1つは「確認しよう」という項目で、具体的な課題について本文から抜き出してまとめる活動。1つは「説明しよう」という項目で、学習したことをまとめたり、発展させて説明したりするようになっている。 ・授業時間数は70時間で構成されており、発展課題に取り組む時間が考慮されている。	・見開き左上に、学習に関する資料が1～3つ、生徒や先生が登場し、資料に対する疑問や見方のヒントを投げかけている。 ・見開き右下に学習のまとめとして「確認」という項目で、説明したり、書き出したりする作業がある。 ・章の初めに2ページにわたリイラストを取り入れ、学習するイメージを捉えられるようになっている。また、各小單元の中にもイラストを多く取り入れている。 ・授業時間数は75時間で構成されている。	・見開き左上に、学習に関する資料が1～2つ配置されている。 ・他社と比べて、文字が大きく、文字数も少なくすっきりしている。 ・掲示資料は他社より少なく精選され、大きく表示されている。余白も多く、余裕をもって配置されている。 ・すべてのページで、多くの説明を提示し、深く学べるように工夫している。 ・ほとんどのページに「ミニ知識」を設け、重要語句に詳しく解説を加えている。 ・授業時間数は72時間で構成されている。	・見開き2ページにわたって上段に学習に関する資料が1～3つ提示されている。そして生徒が登場し、資料に対する疑問や見方のヒントを投げかけている。 ・見開き右下に学習のまとめとして鉛筆マークの欄があり、説明したり、書き出したりする作業がある。 ・章末の「〇〇のこれから」のページには、「スキルアップ！」があり、表現活動の技術の向上が図れるように工夫されている。 ・授業時間数は73時間で構成されている。
4 表記・体裁	○用語や資料、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。	・章の構成と本文ページの学び方について丁寧に説明しており、学習しやすい工夫がされている。 ・一般的な目次とトピックごとの目次があり、見つけやすい工夫がされている。 ・活動の流れがイメージできるようにアイコンが設定されており、わかりやすい表記になっている。 ・各章の始めには、小学校の社会で習ったことばの項目があり、学習の振り返りができるように工夫されている。 ・ICTを活用できるように二次元コードを載せている。 ・ルビの文字濃度を変えて、本文を読みやすくしている。	・章の構成と本文ページの見方・使い方について丁寧に説明しており、学習しやすい工夫がされている。 ・巻頭で、公民で学ぶ主要内容と学習の見通しのコーナーが設けられている。 ・一般的な目次と学習コラムごとの目次があり、見つけやすい工夫がされている。 ・側注や参照ページ、資料ナンバー、学習パートなど、分かりやすく見やすい工夫がされた表記になっている。 ・主体的な学習を進めることができるように「まなびリンク」のサイトを紹介している。	・章の構成と本文ページの学習のしかたについて丁寧に説明しており、学習しやすい工夫がされている。 ・巻頭で公民分野の学習の全体像を見通すページが設定されている。 ・一般的な目次以外に、コラムごとの目次や解説別の目次があり見つけやすいようになっている。 ・側注や参照ページ、写真資料、イラストなど、分かりやすく見やすい工夫がされた表記になっている。 ・二次元コードで、学習の理解を助ける動画などのコンテンツを紹介している。 ・太字にルビが多く使用されている。	・章の構成と本文ページの使い方について丁寧に説明しており、学習しやすい工夫がされている。 ・目次もコラムやトピックごとの目次があり見つけやすいようになっている。 ・本文中のたくさんの語句にルビが振ってある点に特色が見られる。イラストを多用し、分かりやすくする工夫が見られる。 ・デジタルマークを載せ、ウェブページにあるデジタル資料を紹介している。	・側注がわかりやすく表現されている点に特色が見られる。 ・各ページの上部に色分けされた帯があり、調べたい項目を見つけやすくなる工夫がされている。 ・ミニ知識や歴史上の人物を多く紹介している。 ・色合いがはっきりしており、写真や図を際立たせる工夫がみられる。 ・「アクティブに深めよう」のページでは、教科書に直接書き込めるようになっている。	・各章の最初のページに、単元の学習の手順を具体的に示し、学習の見通しをもって学習を進めることができるような工夫がみられる。 ・法令の解説や参照ページなどのマークが多用されている。 ・一般的な目次とコラムの目次があり、見つけやすいようになっている。 ・「やってみよう」や「学習のまとめ」のページでは、教科書に直接書き込めるようになっており、重要な内容について確認できるようになっている。